**1 安野光雅『故郷へ帰る道』**

へ帰るとき、わたしはいつもトンネルの数を数えた駅を出た蒸気機関車が、一つ、二つと数えて、六つ目のトンネルを抜けると、いかにも幕を切って落としたように、懐かしい故郷が現れるのだった。わたしは心のⓐドウヨウを隠そうとして、しかめつらで窓の外を見るのの一本杉が見える。あれは故郷のしるしのようなもので、見まいとしても、そこに目がいくのだ。近くの友達の家も見える。小学校も川も柳も、何一つとして思い出のないものはない。みるみるうちにおびただしい楽器が鳴りはじめ、わけのわからない大交響曲がはじまるのだった。涙が出そうになるのがゆく、自分がステージにいるのでもないのに、なぜか、思い上がったように感情がたかぶるのだ。

だれでもそうだよと、人が言うから書くけれど、十五、六のころは自分だけが成長したような［　Ⅰ　］があるものだ。みんなが見ているわけでもないのに、駅に降り立ち、我が家に向かうところを、わたしはだれにも見られたくなかった。汽車の中で、すでに故郷のりには気がついていた。誇るべきその訛りは、懐かしければ懐かしいほど、恥ずかしくもあった。故郷へ帰ることは、その訛りの中へ帰っていくことである。その［　　Ａ　　］は、弟弁まる出しの中にあった。わたしは笑った。同じことを何度も言わせて笑った。弟の訛りをばかにし、それを上手にして笑うのは、気分がよかった。しかし、①その訛りの真似のなんと真に迫っていたことだろう。そのとき、なにきでも落ちたように、我にかえった。その憑き物が［　Ⅱ　］というものに似ていることを知るのは、ずーっとあとのことである。

わたしは人知れず家の中を調べ、格別の変化のないことをたしかめ、庭の草木もみんな昔と変わらないことを知って安心した。その庭に行くとき、体を空に預けるようにしてⓑロウカに降りる場所があった。ああ、そんなところに体を預ける一種の癖が隠れていたことを、ほかの場所では決して体が思い出すことはなかっただろう。そんなふうに、体が癖を覚えているような場所はほかにもあったはずだが、いまは見つからない。故郷は変わるからだ。時間が過ぎるのだから変わってあたりまえなのに、わがままなわたしたちは、変わらないでいてほしいと、②無いものねだりをする。

そもそも故郷という言葉には、感傷的な甘えの気持ちがふくまれている。だから、あまり甘えないほうがいい。故郷がほんとうに変わってほしくなければ、自分自身も成長してはいけないことになるからだ。わかっている。それなのに故郷が昔のままでいてほしいと思うのは、自分の思い出にひたっていたいからだ。つまり感傷にすぎない。自分の故郷だけでなく、ほかの人の分も入れれば国中が、なんらかの意味で故郷ということになる。

その、故郷が変わる。ときとして自然破壊という言葉のとおり、湖底に沈むなどして故郷が激変することもある。激変してⓒコマるのはわたしだけのことではあるまい。もはや過去をふりかえっての感傷ではなく、未来の日本についての「い」なのである。

語　注

徳佐駅＝を起点とするＪＲ山口線で、船平山を経て津和野に隣接する山口県側の駅。

山の端＝空に接するように見える山の尾根の部分。

津和野＝島根県の最も西南に位置する町。森の故郷としても有名な城下町。

憑き物＝人に乗り移って異常な言動をさせるもの。

漢字　二重傍線部ⓐ〜ⓒのカタカナを漢字に直せ。

（3点×3）

ⓐ〔　　　　　〕　ⓑ〔　　　　　〕

ⓒ〔　　　　　〕

問１　波線部「しかめつら」の意味を次から選べ。（４点）

ア　作り笑いの顔

イ　悲しそうな顔

ウ　怒った顔

エ　不機嫌そうな顔

オ　痛みをこらえている顔

〔　　　〕

問２　空欄Ⅰ・Ⅱに入ることばの組み合わせとして、最も適当なものを次から選べ。（９点）

ア　Ⅰ　自立心　　　　　　Ⅱ　不安

イ　Ⅰ　自重心　　　　　　Ⅱ　自己愛

ウ　Ⅰ　自負心　　　　　　Ⅱ　劣等感

エ　Ⅰ　克己心　　　　　　Ⅱ　心

オ　Ⅰ　利己心　　　　　　Ⅱ　感傷

〔　　　〕

問３　空欄Ａに入ることばを本文中から六字で抜き出せ。（９点）

〔　　　　　　　　　〕

問４　傍線部①「真に迫っていた」のはなぜか。十五字以内で答えよ。（10字）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　傍線部②「無いものねだりをする」のはなぜか。最も適当なものを次から選べ。（９点）

ア 子ども時代と変わらない懐かしい故郷の訛りの中で、安心して過ごしたいから。

イ 自分は都会に住みながら、思い出につながる故郷はそのままであってほしいから。

ウ たとえ故郷に帰らなくとも、故郷は自分の体を安心して預けられる場所であるから。

エ 自然破壊を防ぐため、故郷はいつまでも変わらないでいてほしいから。

オ 昔と変わらないままの懐かしい故郷で、成長した自分自身を確認したいから。

〔　　　〕

練習問題〈同音異義語〉

次の傍線部のカタカナを漢字に直せ。

①個人のイシを継ぐ事業。　　　　　（　　　　　　）

②友人とイシの疎通を欠く。　　　　（　　　　　　）

③往時を忍びカイコの情にひたる。　（　　　　　　）

④青春時代をカイコする。　　　　　（　　　　　　）

⑤古美術に強いカンシンを持つ。　　（　　　　　　）

⑥贈り物で人のカンシンを買う。　　（　　　　　　）

⑦彼の博学にはカンシンさせられる。（　　　　　　）

⑧勤務先にショウカイして調べる。　（　　　　　　）

⑨友人を家族にショウカイする。　　（　　　　　　）

【解答】

漢字　ⓐ動揺　ⓑ廊下　ⓒ困（る）

問１　エ

問２　ウ

問３　故郷のしるし

問４　慣れ親しんだことばだから。（13字）

問５　イ

【練習問題解答】

1. 遺志　②意志（思）③懐古　④回顧　⑤関心　⑥歓心　⑦感心

⑧照会　⑨紹介

【50字要約例】

懐かしさや恥ずかしさなど、複雑な思いを抱かせた故郷もまた自然破壊という言葉のとおりに激変しつつある。（50字）